

60 「マルチメディア」浮世絵（2021年5月27日）

フランスで人気の高い浮世絵は、フランス語辞書にも「Ukiyoe」として掲載されています。浮世絵は、19世紀後半に起こったジャポニズムのきっかけとなり、ヨーロッパ絵画に大きな影響を与えました。現代の私たちは、ヨーロッパ絵画と同じように美術館で浮世絵を鑑賞しますが、200年前の浮世絵師たちが、自分たちが作った浮世絵が額に入って展示されているのを見たら驚くことでしょう。なぜなら、浮世絵は鑑賞するだけではなく、様々な役割を果たしていたからです。

「浮世」とは、10世紀頃にまとめられた和歌集では、苦しい世の中（憂世）を意味する言葉として使われていました。しかし、江戸時代（1603-1868）になって戦乱が落ち着くと、貴族や武士が作って来た日本の歴史に庶民が登場しました。はかない世の中（浮世）である現生を享樂的に過ごすことを肯定する考えが生まれ、当時の世相、風俗や流行を表す絵が浮世絵と呼ばれるようになりました。

このように、浮世絵とは江戸時代の様子を表す絵の総称であって、絵画技法ではありません。浮世絵は「日本の版画」(estampes japonaises)と訳されることがありますが、木版画だけでなく肉筆画もあります。浮世絵の題材は幅広く、美しい着物姿の女性を描いた美人画、歌舞伎役者を描いた役者絵、歌川広重による「東海道五十三次」に代表される名所絵などが作られました。現代に置き換えれば、美人画はファッション雑誌、役者絵はポスターやブロマイド、名所絵は旅行ガイドブックの役割を果たしていました。化粧品の商品名が入った広告絵、力士の土俵での取組や日常生活を描いた相撲絵、人形や模型を切り抜いて子どもたちが遊んだ玩具絵（おもちゃえ）もありました。雑誌、ポスター、ガイドブック、広告、おもちゃなど様々な用途で使われました。浮世絵は、ヨーロッパの貴族が絵師に描かせた肖像画や教会に飾られた宗教画とは異なり、廉価で庶民が手軽に手に入れることができるものでした。



KITAGAWA Utamaro  
« Trois beautés de notre temps »  
喜多川歌麿「寛政三美人」



TOSHUSAI Sharaku  
« OTANI Oniji III dans le rôle d'Edobei »  
東洲斎写楽筆  
「三代目大谷鬼次の江戸兵衛」

## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

このように、浮世絵は、単なる絵ではなく江戸時代のマルチメディアだと言えるでしょう。浮世絵の色使いの美しさや描かれている風景を楽しむだけではなく、江戸時代の日本人にどのように使われていたものか想像してみると、浮世絵鑑賞の楽しみが増えるかもしれません。



« Sanjo Ohashi » dans la série des  
« Cinquante-trois Relais de la route du Tokaido »  
par UTAGAWA Hiroshige  
歌川広重「東海道五十三次 三条大橋」